#### 革命前ロシアにおける経済地域区分研究 : その概観 と今日における評価について

小野, 菊雄

https://doi.org/10.15017/2244513

出版情報: 史淵. 95, pp.17-53, 1966-02-15. 九州大学文学部

バージョン: 権利関係:

# 革命前ロシアにおける経済地域区分研究

---その概観と今日における評価について---

小野菊

雄

### はじめに

世紀初めに至る間に著わされた経済地域区分に関連したいくつかの研究について概観すると共に、現在ソ連においては、 これら革命前の研究に対してどのような評価がなされているかを紹介してみたいと思う。 この小文において筆者は、十月革命前すなわち帝政ロシア時代における経済地理的研究の内、とくに一八世紀から二○

究に対する評価については、この論争における両者の間では明らかに異なるものがあるからである。 門であるという従来からの一般的見解を主張する人々との間の論争を理解する上にもいくらか役立つものであろうと思う(ミ) の問題と並んでソ連経済地理学の最も重要な研究課題となっているのであるが――を考察する上に必要なのはもちろんの のである。何故ならば、筆者がこれまで目を通すことのできたいくつかの論文からみるならば、革命前の経済地域区分研 こと、更に筆者も若干紹介してきたところの最近のソ連経済地理学界の中での論争、すなわち経済地理学を地理的科学の 部門であるとするいわゆる「単一的地理学」( edinaya geografiya ) を主張する人々と経済地理学は経済的科学の一部 筆者としてはこのような概観・紹介が、今日のソ連経済地理学における経済地域区分問題――それは生産の地理的配置

七

介も非常に不充分なものになってしまう可能性が多分にあるが、この点読者諸兄姉のご寛容をいただければ幸甚である。 ただこれらの問題に関する資料、とくに古い資料を未だ充分に手許に集めることができないために、その概観および紹

誌」( opisatelinoe gosudarstvovedenie ) というべき著述が生まれてきたのである。 I )の時代に至って、国全体あるいは個々の行政地域に従って様々の事情を 記録するという形式、 さて、ロシアでは古くから諸地方についての記録が種々の形式で存在していたが、一八世紀初めピョートル一世 ( Pyotr いわば「記述的国家

の中にいわばはじめて理論的問題の存在を考えた人であるともみられているのである。しかし更にその後、 記すものであるというような各々の面に対する定義などについてふれたのであり、このような研究によって、 は政治的面に関する記述といった区別および政治的記述は集落・風習・その地方の住民がとくにすぐれている技術等々を 国のあらゆる土地についての全般的記述をおこなうものだとし、更にその中における数理的面・自然的面・歴史的あるい のを有していたとされるのであるが、更にロシア経済地理学史においては、彼と同時代の人であるヴェ・エヌ・タチシチのを有していたとされるのであるが、更にロシア経済地理学史においては、彼と同時代の人であるヴェ・エヌ・タチシチ という行政単位ごとに住民・産業・交通などについて記したもので、当然その中に今日の経済地理的研究とあい通ずるも チシチョ 1737 )が編集した「全ロシア国家の繁栄せる状態」と題する書である。この書は県(guberniya)や郡(provintsiya) ョフ ( V. N. Tatishchyov, 1686—1750 ) の諸研究も注目されるのである。タチシチョフはその著作の中で、 こうした著述の中でロシア経済地理学史上まずあげられるのは、一七二七年イ・カ・キリロフ( I. K. Kirilov, 1689-フの研究成果を受け、その上に自己の独創的な研究活動を加えてロシア経済地理学を確立したのは、有名なエム キリロフやタ 彼は地理学 地理学は

p

モノーソフ ( M. V. Lomonosov, 1711—1765 ) である。

たと評価されていることは周知のところであろう。(?) しかも各々の領域においてすぐれた成果を残したことから、今日、彼は帝政ロシア時代における最も偉大なる学者であっ モノーソフの研究活動が化学・物理学・数学・鉱物学・地質学・地理学・文学等々の非常に広い範囲にわたっており、

検討する必要があることを彼がある程度考慮していたことがうかがえると言えるのである。 うという計画を示したといわれる点からすると、 わば特派員を派遣して農業に関する情報を集め、それに基づいてロシア農業の地域的差異を研究する国家機関を設立しよ とは、彼が経済地理的研究に与えた一つの定義として考えることができるのであるが、更にやや後に、中央から各郡にい 単にみてみると、まず一七四九年に、地理学は人類がその富について互いに知り合う上に最も役立つものであると述べたこ ところで、地理学だけでもこれまた広い範囲にわたった彼の研究活動の内、その経済地理的研究に関するものについて簡 ロシア経済を研究する際には、各地方が有する互いに異なった意義をも

である。このようにロモノーソフは経済現象に関する地理的研究に注目し、この面の研究に対して一七六〇年代はじめに(3) 基礎資料として用いることを意図して三○問の質問を作成したのであるが、 その質問の多くは工場( fabrika )・手工業 ○問から成るアンケートである。すなわちロモノーソフは、各地方から回収したアンケートを前記の地図帳編集の際に 学の創始者と考えられているのであるが、更にその経済地理的研究において重要なのは、六○年代初めに彼が作成した三 帝国の政治的・経済的記述」というテキストを添付すること、すなわち経済的資料を地図に反映させることを考えたよう しい地図帳と各地方の地図を編集することなどを企図したのであるが、その際彼は、その地図帳に「シベリアを含む全 「経済地理学」( ekonomicheskaya geografiya ) という名称を与えたのであり、 この点からも 今日彼はロシア経済地理 またロモノーソフは、一七五八年からその没年に至るまで科学アカデミー地理部門の指導者として活躍し、ロシアの新 remeslo )・商業・水路を主とした 交通・農業・農民の副業 ( promysel )・都市に 関する様々の特色・住民の民族構

成などの経済的現象に関するものが多かったのである。要するにこのアンケートあるいは一七六三年の彼の著述などから(3) そのことはまた、彼の頭の中にロシアの経済地域区分に関連する観念が芽生えつつあったことを物語っているとも言える みると、ロモノーソフの関心は主にどこで何が生産され、またそれがどのようにして互いに交換されるのかという点にあ ア経済の地域的研究、換言すればロシア経済の地域的差異についての研究という方向を志していたとも言えるのであり、 ったようであるが、それを各地方から回収したアンケートなどによって研究しようとしたことは、前記のように彼がロシ

究、ア・エヌ・ラヂーシチェフ( A. N. Radishchev, 1749—1802 )の 研究等々によって発展していったのである。と Rychkov, 1712—1777 ) のオレンブルグ 地方研究、エフ・イ・ソイモノフ ( F. I. Soymonov, 1682—1780 ) のシベ 活動の萠芽をみてとり、その発展を促そうと考えていたことに一つの要因があったという評価もなされているが、それは ころでこれらの研究の中で、経済地域区分との関連においてとくに取り上げねばならないのは、ア・エヌ・ラデーシチェ 15 )やエス・イ・プレシチェーフ ( S. I. Pleshcheev, 1752—1809 )の 教育的面に重点を置 いたといわれる地理的研 リアを六地方に区分しての研究、更に一八世紀後半におけるハ・ア・チェボタリェフ ( Kh. A. Chebotarev, 1746—18 とも角として、彼によって提示された経済地理的研究の概念は、彼とほぼ同時代の人であるペ・イ・リィチコフ( P. I. ロモノーソフがこのようにロシア経済の研究に努力したことは、彼が封建的農奴制社会の中に商工業という新しい経済

奴の解放を世に訴えたために、激怒したエカテリーナ二世( Ekaterina I )によってシベリアへの十年間の流刑に処せ 思想家でもあったことは周知の事実であろう。彼の代表的著作としては、当時の一般人民の窮乏を記し、農奴制の廃止と農(st) ラヂーシチェフは一八世紀後半のロシアにおける作家・詩人であると共に、専制的農奴制社会機構に常に反対を唱えた フによる研究であろう。

られる原因となった「ペテルブルグから モスクワへの旅」(一七九〇年)があげられる。その後のロシア 文学に大きな影響 二に一七七五年に設定された行政的地域区分と一八世紀末のロシア経済の地域的差異との間には食い違う点が多く、それ 済地域区分の問題に関連して非常に注目すべきものなのである。すなわちラヂーシチェフはこの手紙の中で、(ミタ) 域区分というものは、官吏( chnovnik )ではなくして、研究者が客観的認識に基づいておこなうべき仕事であるという 故に行政的地域区分を経済の状況に合うように変更する必要があること、 だけでなく経済的状況によっても、また互いに区別されるところのロシアにおける様々の地域を明確に示しうること、第 のであり、更に一七九一年三月に彼がア・エル・ヴォロンツォフ( A. R. Vorontsov )に書き送った手紙は、とくに経 地シベリアにおける住民やその職業・社会関係などについての彼の記述も、その経済的研究活動の一面を示してくれている を与えたといわれるこの書は、また当時のロシア経済についても若干の知識を与えてくれるものであるが、その他に流刑 こと等々の見解をあらわしたのであるが、このような考えは経済地域区分に関する原則的問題をはじめて提示したものと 第三にこのような経済の地域的研究あるいは地 第一に自然

ア経済の地域的研究につながるものであったと言えるのであるが、結局彼自身は、ロシア帝国の体制に反対するようなこ る一般人民の苦しみを明るみに出していくことであったといわれる。(GJ) 法令制定に際して、まずロシア各地域における経済・社会状態を明確にすること、すなわち各地域の農業生産物・農業技術 れたのであるが、この仕事に関連してまた一つの論文を著わしたのである。その論文において彼が意図したところは、新 ・工業生産高、そして何よりも一般人民の職業・収入・生活状況を調査することであり、それによって農奴制社会におけ Aleksandr I )の即位と共にペテルブルグへの帰都を許され、直ちに新法令制定のための委員会に委員として迎えら カテリーナ二世没後、一七九七年にその所有地へ移された ラギーシ チェフは、 更に一八〇一年 アレクサンドル一世 こうした彼の考えからみれば、 この研究もまたロシ

して注目されるのである。

 $\equiv$ 

うした計画を提出したことによって、再びシベリアへの流刑という脅迫を受けることとなり、遂に一八○二年自らその命

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

を絶ってしまったのである。

象が生じてきたのである。 約一世紀半の間ほとんどそのままの形で続いたのであるが、しかしこの区分は、前記のように行政監督強化のためにのみ の区分の基礎には、一県の人口は三〇万から四〇万、一郡の人口は二万から三万とするという数的原則を置いたのである。 にいきわたらない点を改めるという目的、いわば行政監督のより一層の強化という意図の下におこなわれたのであり、そ Pugachyov)の指導する農民反乱(一七七三—一七七五年)に衝撃を受けたエカテリーナ二世によって再び改められたので シアを八つの県に区分したのである。しかしこの区分は約七〇年後の一七七五年に至って、エ・イ・プガチョフ (E. I.a) ○八年ピョートル一世は、行政監督および租税徴収を容易ならしめることと軍事上の配慮から行政的地域区分を改め、全ロ (uezd)・軍管区 ( voevodstvo )・地方長官管区 ( namestnichestvo )・都市 ( gorod ) などに区分されていたが、 一七 革の必要性を指摘したということであろう。すなわちピョートル一世以前のロシアは、行政的には区( okrug )・郷 ような当時のロシアの政治体制に対する彼の批判に関連して更にふれておかねばならないのは、 新しく形成・発展してきた経済地域との食い違い、たとえばある単一の工業地域が二つの県に分割されていたり、 おこなわれたものであり、 こうして設定された約五○の県とその下の区劃としての郡という行政的地域区分組織は、 要するにラヂーシチェフの経済的研究もその文学作品同様、彼の社会思想との関連の上におこなわれたのであるが、この 、は大きな工業中心を持つ集落が村( selo )と呼ばれ、それより小人口の郡都の下に行政的に従属するというような現 すなわち彼女による改革は、若干の県が余りにも広大であるために、 前記の手紙にもあるように、ラギーシチェフはすでに一八世紀末の行政的地域区分設定当時か 国内の経済状態あるいはその地域的差異などは全く考慮しなかったために、一世紀半の間には、 これら 諸県 への官庁・行政官の配備 十月革命後の一九三〇年頃まで 彼が行政 的 地域区分改 が充分

も民族構成などの観点から注目すべき見解を示したようである。(8) ばエヌ・エ も言えるのである。なお、こうした行政的地域 区分改革 については、 後にデカブリスト( dekabrist )の人々、 たとえ のであって、ここに行政的地域区分と経済的地域区分との関連性という今日にもつながる問題がすでに提示されていると(答) 式的なものによるのではなく、各地方の自然条件や経済条件、とくに後者を考慮しながら決定する必要があると主張した 5 将来、こうした行政的地域と経済的地域との食い、違いが生じることを指摘し、 ム・ムラビョフ (N. M. Murabiyov, 1796—1843) やペ・イ・ペステリ (P. I. Pesteli, 1793—1826) 行政的地域区分は 人口数のような 形

ろう。しかし、 確固とした理論を形成するというまでには至っておらず、また当時の一般的見解として普及しえなかったとも言えるであ 済地理学史上に大きな意義を持つものであったと言いうるのである。 ヂーシチェフが、その中から経済地域区分に関連する概念を発展させようとしたのであるが、彼らの見解はあるいは未だ な単なる記述や統計の羅列に代る新しい研究方法、すなわち地域的考察を伴う経済地理的研究の概念を提起し、その後ラ 八世紀中葉の農奴制社会の中に新しい経済的要素の発展をみてとったロモノーソフが、その解明のために、従来のよう その後の一九世紀におけるロシアの経済地理的研究の発展を考えるならば、やはり二人の研究はロシア経

招くと共に、他方、ロシア国内に新しい工業地域あるいは農業地域の形成を促していったのである。(8) 義的要素の発展は、一方では農奴の身分のままの賃金労働者を増加させることによって、農奴制社会機構との矛盾の激化を 大、それに伴う商業およびその中心としての都市の発達などの動きがみえはじめたのであるが、このようないわば資本主 ところで一八世紀末から 一九世紀初めのロシアでは、 新しい経済的要素、 すなわち工業の発展、

農産物の商品化の増

研究との関連において常にあげられるのは、カ・エフ・ゲルマン(K.F.German, 1767—1838)とカ・イ・アルセニェフ 区分研究、すなわち今日の経済地理学的性格をも包含していたのである。とのような統計学的研究の中から経済地域区分ののである。 する百科事典などはそのような要求に答える一つの例でもあったが、一九世紀に入ってからは、 理的資料の収集とそれに基づく経済地理的著作・教科書・事典などの出現が必要とされたのである。たとえば、すでに一 業資本家にとっても、行政監督その他種々の点から緊要の問題と考えられたのであるが、そのためにはまず、豊富な経済地 り、そしてこの「統計学」が、統計や資料の単純な記述と共に、広汎な新しい資料に基づく詳細な経済地理的研究や経済地域 にした国家誌とでもいうべき「統計字」( statistika )が、前記のような必要に応ずる 研究部門として発展してきたのであ 八世紀末に出されたプレシチェーフの著作やエム・デ・チゥルコフ ( M. D. Chulkov, 1743—1793) のロシア商業に関 こうした動きを内包するロシア経済を全体としてあるいは各地方について詳細に認識することは、 豊富な資料や統計を基礎 国家にとっても商工

( K. I. Arseniev, 1789—1865) の諸研究であろう。

に、 資料を地方あるいは県ごとに歴史的に比較し、 知られているところである。ところで彼はその諸研究の中で、人口・都市・産業その他の面から各県についての特徴づけ をおこなったりしているが、一八一九年の著述ではロシアの人口・民族構成・都市住民などの問題にふれ、更に人口調査 や政府諸機関での産業・人口などの分野の地図作成に努めたのであるが、とくにその人口についての研究は今日でもよく ・住民の状況・法律等々国家に関するあらゆるものを対象とする政治科学であると考え、ロシアにおける統計資料の整備 政府機関や科学アカデミーにおいて政治経済学および統計学の研究に活躍したゲルマンは、統計学は産業・科学・ 気候や土壌の性質などによってロシアを八地域に区分したのである。ゲルマンが、従来のような緯度などによって地 そして各地方の人 口増加をその気候条件と の関連において概観するため

域区分するという単純な方法を否定して、とも角もこのように気候などの自然条件を明確な指標としながら人口という経

済に関連した現象を研究するための地域区分をおこなったことは、 と言えるのであるが、更にそれを発展させたものとして注目されているのがアルセニェフの研究なのである。@ 経済地域区分研究史の上でかなりの意義を持っている

7 展には必須の形式だったともみられる一般地理的地域区分であったと考えうると言われているのである。またその他に、 のために多数出版されたといわれるが、アルセニェフの研究もその例にもれず、理論的面よりも啓蒙的面が強いものになっ るいは啓蒙的意図が大きな要因をなしていたとみられることである。すなわち当時のロシアでは、(ヨ) に対する批判を生み出す考えにつながっていくことになり、 にあったのであるが、 われたのであって、 たと思われるのであり、 律・風習・科学等々あらゆる分野についてのひと通りの知識を互いに何らの関連もなく盛り込んだ地誌が、 とは、彼のこの地域区分の場合、 の地域区分の上に立って、豊富な資料による各地域の特徴づけをおこなったのであるが、ここで一つ注意しておくべきこ 方の性格を確認できることとロシア国内の多様な産物についての概観が容易にえられるということのために、 マンと同じく統計学を政治経済学と考え、 さてアルセニェフは、一八一八年から翌年にかけてそのいくつかの研究を発表しているのであるが、その中で彼はゲル それらに対する分析や経済的評価を与える必要があることを主張し、 セ フが自然的条件と経済的条件とを共に考慮したねらいは、 産業における類似性に基づいてロシアを一〇の地域( prostranstvo ) に区分したのである。 そこから更にこの地域区分は、いわば経済地域区分の一つ前の段階であり、 しかし結局こうした考えは、 それ故に彼のこの地域区分は、 前記の目的からも若干わかるように、「学ぶ者に大きな 便宜を与える」という教育的あ 諸地方から多くの統計資料を収 集することおよび それらの単なる羅列では 自然の産物を基礎にした自由な商工業の発展の必要性を認め、 自然的条件もあるいはその他の条件も一緒に考慮した上でおこな それがためにこの研究は、 ロシアの自然の産物を経済的発展に結びつけること 更に少数ではあるが明瞭な特徴によって各地 羅列的統計に批判を加えた彼の態 しかも経済地域区分の発 行政·財政 気候 経 彼はまたこ わゆる啓蒙 土 法

る結果になったのだという分析も出されているようである。 (3) 度と共に、当時の保守的学者の非難の的とされ、遂にアルセニェフはペテルブルグ大学の教壇を去ることを余儀なくされ

られるのであり、この意味において彼のこの二つの研究の間にはかなり本質的な違いがあるとされているのである。 ものだったと考えられるのに対し、この地域区分は、明らかにロシア経済の地域的特色の研究を主要な目的としているとみ 自然的および経済的面から各地域の特色にふれていったのであるが、三〇年前の彼の地域区分が教育的目的を主眼とする てロシアの諸県を分類せねばならないとしたのである。こうして彼は以前のものを修正した新しい地域区分をおこない、 またどのような職 業( zanyatie )や副 業( promysel )が彼らの生活や食 糧を保障しているのか」ということによっ の県の存在」を支えている「資力」( sposob ) についての研究の必要性を主張し、更にこの特徴、すなわち [ある地方 といわれる一八四八年の著作「ロシアの統計的概説」として実を 結んだと言えるのである。 彼はこの書において、「個々 用することが以前よりも一層容易になったのであり、それがやがて、ロシア経済地理学史上からみて、彼の最も重要な研究 更に三〇年代には政府統計機関の指導者となったことによって、種々の国家機関から豊富な統計資料を入手し、 の住民の活動が何に向けられるべきか。そして実際に向けられているか」「住民がその自然から何を引き出しているか。 しかしその後アルセニェフは、 一八二〇年代末には皇太子アレクサンドル二世 (Aleksander II)の家庭教師となり、 それを利

九世紀中葉の詩人であり、また友人ア・イ・ゲルツェン( A. I. Gertsen )と共にロシア専制政治打倒のために活躍した り近い形式の研究に進んだことを示しているとも言えるのであるが、ここにおいて問題となるのは、彼のこの研究に大き 人として有名であるが、彼はその社会運動との関連において、一八四〇年代後半からロシアの経済的諸問題の研究に努めた な影響を与えたといわれるエヌ・ペ・オガリョーフ 八四八年におけるアル セニェフのこのような研究は、いわば彼が以前の一般地理的地域区分から、 ( N. P. Ogaryov, 1813—1877) の研究である。 経済地域区分によ オガリョ ーフは一

最も重要な研究者の一人とされているのである。 (S) のであって、中でも経済地域区分研究にはじめて理論的基礎づけの問題を提起したことによって、 ロシア経済地理学史上

Ξ

六号に発表した論文は、経済地域区分に関する彼の最初にして最も重要な研究として注目されるのである。 関する論文が盛んに発表されるようになったのであるが、(※) る経済各部門についての地図などが多く出版されたのである。そしてこうした地図や論文としてあらわれてきたロシア経 状況から何とか出口を求めようという意味もあって、以前よりも一層ロシア経済の地域的特色に対する研究に努力したの のである。そこから当時の経済研究者達のみならず、政府もまた資本主義的要素と封建的農奴制との間の矛盾の激化という どとして間断ない成長を示していたのであり、当然それに伴う地域的分業の現象が益々顕著にみられるようになっていた てロシア経済の研究に入っていったのであって、一八四七年に雑誌「モスクワ通報」( Moskovskie vedomosti ) 第一一 済の地域的特色に対する研究は、当然ロシア経済地域区分の問題に関連していったのであり、事実この頃には地域区分に であり、そのため一八四○年代から五○年代にかけては、政府や個々の研究者によって、 をみせはじめた資本主義的要素が、工場制工業の発生とその増大、農業への商品貨幣経済の一層の浸透、国内市場の発展な さてオガリョーフがその研究をはじめた一八四○年代前後のロシア経済は、前記のように一八世紀後半から次第に発展 オガリョーフはこのような状況の中で、その社会思想に基づい ヨーロッパ・ロシアを中心とす

的分割」(statisticheskoe raspredelenie)、すなわち今日の経済地域 区分にたずさ わるところの統計学、 において、彼はそれまでの地域区分研究に対する批判と自分自身の考えを提示したのであるが、その中からまず彼が「統計 すなわち現在の

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

「『ロシア帝国の統計的分割の試み』と題して『モスクワ 通報』第九八号に掲載さ れた論文への批判」というこの論文(※)

経済地理的研究をどのように考えていたかについてふれておくことにする。

や森林の多少などで区分したり、歴史的事象によって区分していたかと思うと、途中から急に民族的事象による区分に変 々の事象による系統のない地域区分あるいは国の生産力の差異を考慮しない地域区分であって、たとえば緯度による位置 区分は、 東・西・南・北という非常に単純な指標で満足しているようなものだとし、通常ロシアでおこなわれているこうした地域 地域区分とでも言えるもので、各地方の住民の活動や生産力について示唆してくれるようなものは全く記さず、たとえば 分を三つのタイプに区別したのであるが、その内の第一のタイプは「数学的•地理的」(matematicheskoe・geograficheskoe) 局、自然・経済の種々の部門の名称を無秩序に並べたものにすぎないと批判したのである。更にまた彼は、彼以前の地域区は、自然・経済の種々の部門の名称を無秩序に並べたものにすぎないと批判したのである。 ープに入れられているなど、何らの明確な科学的原則に基づいていないとし、こうした科学的根拠の薄弱な地域区分は、結 の地域区分は、実際に形成されている経済的特色からすれば、同じグループに入れられるべきではない若干の県が同一グル の歴史の結果としての国民経済の現状を研究することによって、歴史学とも密接な関連性を有しているとしたのである。(祭) 計学は全く空文となり、平凡な諸事実に関する平凡な記述にとどまってしまうことを指摘したのであり、またそれが国家 ところの政治経済学の見地に従うべきだとし、政治経済学への従属あるいは政治経済学から統計学への浸透なくしては、統 たずさわるべき科学であるとしたのである。更にそのことから統計学は、生産的諸力などについての認識の手引きである いものだと批判し、 このような考えに立って彼は、地理的位置・自然・民族・住民の職業などに基づいたという「モスクワ通報」第九八号 まずオガリョーフは、それまでの統計学は分析や解釈や結論なしに資料を収集し、それを平凡に記述しているにすぎな 国家のより一層の発展がそこから はじまるところの諸要素を分類すること」、換言すれば生産力による国家の区分に 全く外面的で科学というものにはほど遠い概念に基づいていると批判するのである。 統計学は国家の物質的また生産的 諸力の発展の原理に 関する科学であり、「国家がそれによって成立 次に第二のタイプは、様

のではあるが、 わったりするような地域区分であるとし、また第三のタイプは、国の生産力の内の一分野だけというきわめて一面的なも しかしその分野に関してはかなり系統的な地域区分をおこなっているものであるとしたのである。(3)

不自然なものでしかないということを指摘したのである。(\*) ており、結局、農業だけによる地域区分では社会的活動全体を概観することは不可能であるが故に、それは一面的であり のみを考慮して経済的条件にはふれておらず、また農業以外の経済諸部門についても全くふれていないという欠点を持っ 評価したのである。しかし彼はそういう肯定的評価を一応与えた上で、この地域区分がもっぱら農業のための自然的条件 原則の上に立って農業に関する組織的な地域区分をおこない、ロシア農業の概観を知る上に多くの役割をなしえていると 各地方の気候について考察し、それによってロシアを八農業地帯に区分した研究をあげ、これがとに角、気候という明確な 八三四年の「農業新聞」( zemledelicheskaya gazeta ) 第一号に発表された研究、すなわち農業の発展に関連してロシア オガリョーフはこのように従来の地域区分を三つのタイプに区別したのであるが、その内の第三のタイプの例として、一

たのであり、 経済各部門別の地域区分研究の中には見るべきものもあるが、それとてもやはり一面的性格という欠点を有しているとし きなどについて何も示唆していないような研究、すなわち真の意味の統計学とは何らの関係もないようなものが多く、また 要するに彼は、地域区分を含む従来の統計学的研究は、国家の歴史の記述や民族の記述だけで、国の生産力や産業の動 こうした考えに基づいて、地域区分に関する彼自身の見解を提示したのである。

各地方それぞれに認められるありとあらゆる種類の、しかも各々が県や地方によって異なる価値を有しているところの生 きてオガリョーフは前記のように、統計学は国の生産力・産業の発展・社会的活動の発展などについての知識を与える すなわち今日の経済地域区分は自然的条件や民族的差異によっておこなわれるべきものではなく、各県あるいは ここにおいてそれは政治経済学と不可分の関連性を有するとしたのであるが、その統計学がおこなう 「統計

うると主張したのである。(8) によっておこなわれるものだとしたのである。つまり彼によれば、たとえば「農業やマニュファクチュア(manufaktury) きないものであるということを強調したのである。(※) にさえ不十分な農業は第二義的な活動にすぎない。一方後者では農業が富の 主要な源泉であり、商業の対象であるのに対 前者ではマニュファクチュア工業が主要な活動をなし、商業の対象となっているのに対し、その収穫がこの地方を養うの はモスクワ県 ( Moskovskaya guberniya ) にもタムボフ県 ( Tambovskaya guberniya) にも存在している。がしかし、 すべての生産力がそれを保持するために結合されているような「生産能力」を見つけ出し、それらを関連づけていくこと 産力の中から最も優越しているもの、すなわちその地方に存在している 最も重要な「生産能力」(proizvoditelinosti)、 的原則もなしにおこなわれているような勝手な経済的又は行政的地域区分は、決して統計学的研究として考えることはで 確な認識に到達しうる唯一の方法であるが故に、この基礎の上に立たないで、偶然によったりあるいはその他何らの科学 長したところの同種類の活動の接近」こそが地域区分研究の基礎であり、また各地方の持つ実際的意義や全国に対する明 条件、各地方の社会経済的関係、 となるべきことを指摘したものだとも言えるのであるが、その他に彼は、地域区分に際しては、地域形成要因としての交通 う上に一番大切なのであって、このようにすれば同一の「専門」( spetsialinosti ) は必然的に同一のグループに分類され な活動面を見出し、それを基にして諸地方を「接近」( sblizhenie ) させていくことが、ありのままの地域区分をおこな 要するに各地方それぞれのあらゆる社会的活動を分析し、その中から各地方の条件に従って形成されている最も重要 マニュファクチュア工業は取るに足 りないものにすぎない」 という ような事実に注目 する必要があるというのであ オガリョーフのこの考えは、生産力の地域的専門化あるいは地域的分業が経済地域区分の基礎 歴史的条件などの意義も考慮する必要があるとし、更にこうした「同質の基礎の上に成 他の

八四七年のオガリョーフの論文は、科学としての統計学、すなわち今日の経済地理的研究の概念を発展させ、その理

葉における経済地域区分は、 れるべきだと考えられるのである。更にまたこの論文は、前記のように一八四八年のアルセニェフの研究や五〇年代に盛 礎とする方法論を提示したものと言えるのであり、こうした点からみて彼のこの論文は、単なる地域網の変遷としてでな 論 んに出版されたテキスト添付の産業別経済地図などにも多くの影響を与えたといわれるのであるが、正にこの一九世紀中 に基づいて、国民経済における各地域の専門化又は地域的分業を「統計的分割」、すなわち今日の経済地域区分研究の基 理論的発展の上からロシア経済地域区分の歴史を取り扱う時、革命前における最もすぐれた業績の一つとして評価さ オガリョーフの研究によって、それまでのいわば一般地理的地域区分の形式から大きく発展

をみせはじめたとみることもできるであろう。

政的地域区分を崩壊させたならば、その後にはロシアをありのままの経済的・民族的差異に従って区分し、同時にそれが 前記の経済地域区分研究と密接につながっているものであったことはいうまでもないことであり、 更に六一年には工業・農業・商業・交通・民族などの点を考慮して八~一〇の地方に区分する考えを示しているのである。(゚タン) るにその行政的地域区分改革の考えが、 分」( soyuznoe delenie )についての考えを示しており、また五九年にはロシアを九つの連邦( soyuz )に区分する考えを、 関心を持つ地方が分割され、 いわばラヂーシチェフやデカブリストの人々の流れを汲む研究、すなわちロシアの行政的地域区分の改革に関する研究で 「強奪」( grabyozh )を欲しいままにするような区分にな っているとし、 このような機 構に代るところの「連 邦 的 区 その他に彼は、 ところでオガリョーフは、一八四七年以後もたびたび地域区分の問題にふれているのであるが、それらの内の多くは、 たとえば一八五六年に彼は、行政的活動強化のために政府によっておこなわれた行政的地域区分は、 ロシアにおける革命的組織の活動という見地からの地域区分研究などもおこなったようであるが、要する。 異なる関心を持つ地方が同一グループに入れられているような勝手な区分、役人達が行政的 ロンドンにおいて、 ゲルツェンと共に帝政打倒に努力していた彼の社会的活 また将来、 今や同一の 官僚的な行

ず、それ故に一八四七年の理論的研究を更に深く掘り下げることができないままに終ったと言えるようである。このこと(si) 行政的地域区分の枠を意味するような機構を実施しなければならないという考えを示したことは、経済的地域区分と行政の。 史上における彼の経済地域区分研究の価値がいささかも減退するものでないことはいうまでもないところである。 は今日からみればいささか惜しいことだったと考えられるのであるが、しかしもちろんこれによって、 にたずさわるという事態を 余儀なくされたために、 経済地域区分研究 に必要な統計的資料を 十分に入手することができ 域区分問題に取り組んでいたオガリョーフも、ただ一八五六年からは、ロシアから遠く離れた亡命地ロンドンにおいて研究 的地域区分との関連の必要性を示唆したものとしてみることもできるであろう。しかし一八五○年代そして六○年代と地 ロシア経済地理学

#### 四

tunatov, 1856-1925) などの研究である。 革命に至るまでの時代にも、 区分研究に関して注目されるのは、ペ・ペ・セミョーノフ=チャン=シャンスキー (P. P. Semyonov-Tyan-Shansky, 1827-1914)、デ・イ・メンデレーェフ (D. I. Mendeleev, 1834-1907)、ア ・ エフ・フォルトゥナトフ (A. F. For-さてロシア経済地理学の発展に大きな役割を果したオガリョーフ以後、一八六一年の農奴解放令発布から一九一七年の ロシアでは多くの人々が経済地理的研究にたずさわったのであるが、それらの中で経済地域

える諸条件の同質性によって、ヨーロッパ・ロシアを一四の 活動に基づいて、一八七一年、ヨーロッパ・ロシアの住民の地理的配置や人口密度の分析をおこない、その配置に影響を与 その内まずロシア地理学史上において著名なペ・ペ・セミョーノフは、学者としてまた政府の統計部門指導者としての もっともこの地域区分は自然的条件と経済的条件の内、前者に重点を置いておこなわれたものとみることができるよ 「自然的地方」( estestvennaya oblasti ) に区分したのであ

に区分している。 済的組織・民族的要素・歴史的特色・交通におけるヴォルガ川の役割などを考慮しつつヨーロッパ・ロシアを一二の地域 うであるが、その後彼は、一八八○年により一層新しく豊富な資料を利用して、自然的条件・人口密度・住民の職業・経 その際彼はこの一二地域の下に、主に土壌などの自然的条件に基づいて更に小さい 「地域」( polosa )

映しているものとして評価されているようである。 (8)

を区分したのであるが、一八八○年のとの地域区分は、一八七一年のそれよりは、

ロシア各地方の経済的活動をかなり反

諸要素の混合物としての地域区分だという批判を加えているようである。もっともその後メンデレーェフは、一九〇六年 の地域区分は科学的な統計的基礎が一貫しておらず、経済的地域区分というけれども、実際は気候上・人類学上・経済上の るために各地方が有する条件などに注目したのであるが、しかし一八九六年にフォルトゥナトフは、 の見地から各地域の特色をみていくことを考え、とくに人口密度・生産物や原料輸送のための交通条件・安価な燃料をう 業に関する研究の中で、工業に対するより良い認識のためにロシアを一四の地域に区分している。この場合彼は、工業発展 に自然的および経済的特徴によってロシアを一九地域に区分し、 次にペ・ペ・セミョーノフよりもやや後の一八九三年には、化学者として有名なデ・イ・メンデレーェフが、ロ 更に各地域における最も本質的な経済的要素の指摘、工 メンデレーェフのこ シア商工

から、一九世紀後半のロシア経済に関する諸事情をかなり示唆してくれるものとしても評価されているのであるが、 し一方彼らの研究においては、 り工業中心であるというような評価の他に、その具体的な経済的資料の豊富さや各地域についての充分なる記述などの点 ところでペ・ペ・セミョ ーノフやメンデレーェフによるこれらの研究は、前者がより農業中心であるのに対して、後者はよ 地域区分研究の理論面に関してあまりふれていないのであって、こうした地域区分の方法

業発展との関連における各地域の特色づけをおこなっている。

論上の問題を論じたこの時代の研究としてあげられるのが、一八九六年に発表されたフォルトゥナトフの論文である。

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

経済地域区分設定の際にも重要であるなどと考えたのであって、このような点からみれば、 ア各地方に形成されていた経済的地域とは著しい食い違いをみせていた行政的地域区分を重視し、県という行政単位が るのであるが、その他に彼は、地域区分は国家政策の実施の上に大きな意義を持っているとし、そこから当時すでにロ の条件の役割を決定的なものとみるのか否かなどということは全く明確にしていないところなどにもあてはまると言われ とは、彼が経済地域区分に際しては社会的条件を考慮すべきだとしながらも、それではいかなる社会的条件を考え、 またそ 域区分の必要性を正しく主張しながらも、その定義や認識をはなはだ抽象的なものに終らせてしまったのである。 てくることは不可能であるところに非常なむつかしさがあると彼自身も認めているように、フォルトゥナトフは科学的地 など各地方の自然的条件の数量的特徴を結合させていくことが重要だとしても、実際にそのような数量的特徴を取り出し であるが、しかしこうした定義などからある程度うかがえるように、またたとえば、農業地域区分に際しては土壌や気候 の国の分割」という地域区分に関する認識、経済地域区分の基礎に数量的特徴を置くべきだという考えなどを提示したの 標示されるところの地表の一部分」とい う地域についての定義、「少数の最も重要な特徴」による「比較的大きな地域へ あるということを主張したのである。 そのために彼は、「何らかの特徴によって他の部分から区別され、 るが、その中で彼は、従来の地域区分における科学的原則の欠如を指摘し、それ故に今や科学的地域区分を創造する必要が 初の歴史的概観とアルセニェフ、ペ・ペ・セミョーノフ、メンデレーェフなどの研究に対する考察をおこなったものであ フなどよりも社会的・経済的・歴史的視点が若干欠けていたと言いうる面を持っていたとすることができるであろう。 ®3 フと同じく地域区分は国家行政のために必要であり、それは自然的条件と人口密度•民族的特色•住民の職業などを関連 さて、一八六一年頃から一九一七年にかけての時代における経済地域区分研究としては、これらの他にも、フォルトゥナ 「ロシアにおける農業地域の問題について」と題するフォルトゥナトフのこの論文は、ロシア経済地域区分に関する最 彼の地域区分理論はオガリョ 地図上に正確に そのこ

び交通関係の資料に基づいてョーロッパ・ロシアを一二の地域に区分し、更にそれを一○六五の小地域に細分したところ のヴェ・ペ させて考察することによって正しくおこなえるとしたデ・イ・リフテル( D. I. Rikhter )の研究、豊富な商工業およ セミョーノフ=チャン = シャンスキー ( V. P. Semyonov-Tyan-Shansky ) を中心とする人々による研

の基礎となったこの論文については、彼の他の研究と共にまた機会を改めて考察していきたいと思う。 的方法論の上に置く端緒をなした研究として、その後のソビエト時代における経済地理的研究あるいは経済地域区分研究 る最も重要な研究は、 究、農業地域区分に関するア ・ イ・スク ヴォルツォフ ( A. I. Skvortsov ) や ア ・エヌ ・ チェリンツェフ (A. N. Chelintsev)の研究等々多くのものをあげることができるのであるが、 今日のソ 連経済地 理学からみてこの時代におけの すなわち一八九九年ヴェ・イ・レーニン(V. I. Lenin )が発表した論文「ロシアにおける資本主義の発展」であろ しかし、 資本主義ロシアについての最初のマルクス主義的経済地域研究として、更にマルクス主義的理論を経済地理 ロシアでの経済地域の形成・発達の 過程を資本主義の 発展との 不可分の関連性において論じた研

#### Ŧī

して少しふれておくことにしたい。 今日のソ連経済地理学者達の間には若干の評価の違いがみられるのであるが、この小文の終りにあたって、このことに関 ところで今まで記してきたような一八世紀から二○世紀初めにかけてのロシアにおける経済地域区分研究については、

メンデレーェフなどの研究についての評価においてそれが著しいようである。すなわちユ・ さて、革命前の経済地域区分研究に対する評価の違いということになると、とくにアルセニェフやペ・ペ・セミョーノフ、 ゲ ・ サウシキン

アルセニェフは経済地域区分の理論と実践の上に 堅固な基礎を 築いたとし、 またエヌ ・ニキーチン

研究がやはり地域区分の理論と実践に非常な貢献をもたらしたとするサウシキンなどに対して、彼らは確かに経済地理学 も若干の差異があるけれども、 の肯定的面だけをみようとする態度は、一九世紀末から二〇世紀初めのブルジョア的社会思想の階級的方向をあいまいに じてきた様々のブルジョア的限界や欠点が彼らにあったことを忘れるべきではなく、こうした点を解明することなしに、そ の上に多くの業績を残したのではあるが、それと同時に彼らがブルジョア的社会思想の持主であり、それ故にそこから生 主張しているのである。(8) 等にみることなどによって、あたかもアルセニェフなどの思想が革命的なものであったかのように言うのは誤りであると 考察してはいないとし、こうした論争を重視したりあるいは彼らの研究とラギーシチェフやデカブリスト達の研究とを同 義的な問題であり、更にアルセニェフやゲルマンはデカブリスト達に影響を与えるほどロシアの行政的地域区分について たペ・エム・アラムピエフ( P. M. Alampiev )もアルセニェフと保守 的学者 達との論争は経済地理学史上では第二 に関する改革計画に強い影響を与えたとするのに対し、ア・エス・ヴェトロフ( A. S. Vetrov )はサウシキンやニ(®) アルセニェフと当時の保守的学者達との間の論争を重視し、更に彼やゲルマンの研究がデカブリスト達の行政的地域区分 してしまうものだという批判が出ているのである。その他ラチーシチェフやオガリョーフなどの研究に対する見解の中に(8) 経済地理的理論も存在しておらず、それ故にアルセニェフも何ら理論的な経済地理的命題を提起してはいないと述べ、ま チンの評価には経済地理学の 発展の歴史を単純にみようとする 態度がうかがえるとし、 一九世紀の革命前ロシアにおける科学の発展に新しい道を開いたものであった」と述べ、あるいはサウシキン達が(※) Nikitin )が「当時の経済地理的著作におけるすぐれた現象であったところのカ・イ・アルセニェフの多くの研 このことはペ・ペ・セミョーノフやメンデレーェフに対する評価においても同様であり、 やはり最も注目すべきものは前記のようにアルセニェフなどについての評価の違いであろ 一九世紀前半にはまだ何らの 彼らの

う<sub>。</sub>

究が有する若干の限界は認めつつも、 臣民」( vernopoddannaya )としての学者・官吏が、国家行政の利益を考慮しつつおこなったところの研究の流れとが存在 革をも計画したところの革命的あるいは進歩的な研究の流れと、アルセニェフやペ・ペ・セミョーノフなどの「忠良なる ものがそれほど顕著にあらわれてこないのに対し、後者のいわゆる「忠良なる臣民」達の研究については、 とのつながりも幾分考えられるのであり、そのために、レーニンの研究と比較した場合などにみられるようなそれらの研 したとしているが、この内前者の流れは、思想的面やオガリョーフの地域区分概念などから、現代のソビエト経済地域区分(@) 、チェフ、デカブリストの人々、オガリョーフなどのように当時のロシアの社会経済機構を批判し、 この点に関連してアラムピエフは、 やはり今日多くの人々が高く評価しているのであって、その間の見解の違いという 革命前ロシアの経済地域区分研究には本質的に異なる二つの流れ、すなわちラヂ 行政的地域区分の改 価の違いが

かなり明瞭に出てくるのであり、結局、革命前の研究の内、これらの研究を今日どのように評価するかが一つの問題にな

は到底できないという、 経済現象の認識に若干の意義を持ちえたとしても、根本的には現象の表面をみているだけで、その本質までも解明すること に基づいておこなわれたものであって、そこには充分に科学的な経済理論を基礎として持っていない以上、 特色や経済地域の形成過程などを解明する上にいくらか役立つものであるとするのである。 情をある程度客観的に映し出しているのであり、その意味においてこれらの研究は、今日ソ連各地における経済的 々が各地方に関する豊富な資料を収集・整理し、それに基づいておこなった経済地域区分研究は、当時のロシアの経済事 そこでこれについて再びアラムピエフの考えを紹介してみると、 これらの研究が時には偶然によるものも含めて、ただ単なる任意の統計上の特徴や自然的条件などにおける同質性 いわば統計上の「カルタ占い」(pasiyans )とでも言いうる研究であったことを忘れてはいけな 彼はアルセニェフやペ・ペ・セミョーノフその他の人 しかしそれと共にアラムピエ たとえそれが 発展の

明しうるものであったかのように言うのは全くの誤りであることを指摘するのである。® 価してしまって、革命前の研究がそのままソビエト時代へ受けつがれて発展し、それが社会主義建設に必要な問題をも解 であるが、そうかと言ってこれらの研究とソビエト時代における研究との間に横たわる原則的違いを無視あるいは過小評 要するにアラムピエフは、革命前の経済地域区分研究にはそれぞれいくつかのすぐれた点が認められるの

分の間では全く異なっているところの社会経済的機構や階級的内容に対する具体的な考察もせずに、両者の差異を「認識」 済の計画化から発展したものであって、諸地域についての認識の結果として単純に導き出されたものでないことは明らか だというのである。 されるものであり、現にソビエト時代の経済地域区分は、社会主義革命後の欠くべからざる必要によって生まれ、 らば、アラムピエフによれば、確かに認識は改革のために必須ではあるが、 しかし「改革への努力」は別の過程から生み出 を持つものとしてとらえていくことによって両者の関連を見出そうとする傾向に対しても批判を加えるのである。 横たわるところの改革(preobrazovanie )という目的と認識(poznanie )という目的との根本的違いにもかかわらず、 ことを認めながらも、 るように、革命前とソビエト時代の経済地域区分が直接的につながってはおらず、その間には原則的差異が存在している 改革への努力を生み出す。また改革の過程自身も認識のために非常に多くのものを与えるのである」という主張にみられ 改革と認識との間のある一定の関係をも同じようにみてはいけない。すなわち改革のためには認識が必須であり、認識は による次のような主張、すなわち「我々のソビエト地域区分と革命前の時代の地域区分との間の原則的差異の基礎として それ故に彼は、現在ソ連経済地理学者の間に若干みられる傾向、 たとえばべ・ア・ヴァリスカヤ (B. A. Valiskaya ) そして更に重要なことは、ヴァリスカヤのような考えの人々が、革命前とソビエト時代との経済地域区 革命前の研究を「認識」的性格を持つものとして、また一方ソビエト時代の研究を「改革」的性格 何故な 国民経

と「改革」という抽象的面からみようとする態度を取っていることであり、このような態度は、両者の間に横たわる最も

るとみることもできるというのである。 根本的な差異、すなわち、革命後の国民経済が革命前とは本質的に異なるところの社会主義の道を進んでおり、 る経済地域区分の任務も、革命前とは全く異なるものになっていることを等閑に付してしまうような考えにつながってい これ

るというところに存在しているように思われるのである。 初にふれたところの経済地理学を地理的科学の一学科とする考え、いわゆる「単一的地理学」の考えを支持する人達であ れば、その一つの原因は、 済地理学者の中にこうした分析をおこなっていないと批判されるような傾向がみられるのであろうか。筆者の浅見からす アラムピエフなどの言うように、ソビエト時代とは根本的に異なるところの社会経済機構や思想的側面を内包するものと 筆者としても、もしマルクス主義的経済地理学の立場に立つのならば、革命前ロシアにおける経済地理的研究に対しては、 に一九二○年代にイ・ゲ・アレクサンドロフ(I. G. Aleksandrov )やその他の人々も指摘していたところなのであり、 しての分析を進めた上で評価を与えていくのが当然であろうと考えるものである。しかし、それでは何故、 ところで、こうした革命前とソビエト時代との研究の間の本質的な違いを常に忘れるべきではないということは、 サウシキンやニキーチンなど革命前の研究を過大評価しているとされる人々が、この小文の最 今日のソ連経

たロシア地理学会は、 済地域研究のための自然地理的資料の重要性を強調したのであり、彼もその創立のために活躍し、 の研究において、経済地理学がより一層発展するための基盤となったのだと言うのである。 地理的資料を包含することや経済的見地からの自然的条件の評価などをおこなったのであって、そのことがアル することを示したのであり、こうしたロモノーソフの観念に基づいた一八世紀ロシアの経済地理学は、その記述の中に自然 球の外貌を研究するものと考えて、その中に住民や経済の地理を含めたり、経済的問題を自然的条件との関連の下に解明 すなわちサウシキンやニキーチンなどによれば、ロモノーソフは地理学を「単一的統一体」( edinoe tseloe )としての地 アル セニェフの研究との関連において、統計学すなわち経済地理学を地理的科学の中に含めたのだ 更に彼らは、アル 一八四五年に設立され 七二 セニェフ フも経

のである。 問題の広汎な提示」というものが、「ロシア経済地理学の歴史的発展における特質」 なのだということにあるとみられる 済地理学の形成』、更に自然的条件に対する経済的評価など、「地理的科学としての経済地理学」の下での「経済地域区分 いるが、要するにサウシキンなどが強調したいところは、「革命前の時代のすぐれた著作における地理的科学としての経 決定論からはきわめて遠いところにあり、環境を変化せしめるところの人間の労働に大きな意義を与えていたなどとして のような概念が学会活動の本源であり、またこれによって、学会によるすぐれた研究成果を保証することができると主張し • ぺ • セ ミ ョーノフ も 、地理的科学は数理地理 • 自然地理 • 統計学すなわち経済地理 • 政治地理 • 人類学を含むものとし、こ とするのである。また、 たと言うのである。その他、 会はこの認識の上に立って経済地理学の発展に大きな役割を演じ続けたのであり、たとえば、学会指導者の一人であったペ 地理的科学の中に経済地理学を含めるというこの概念は一九世紀後半にも維持され、ロシア地理学 アルセニェフは経済に対する自然的条件の影響に注目していたが、当時支配的であった環境

本質的に異なるものであることを認めながらも、 ていることは明白であり、これから考えれば、彼らが、革命前ロシアの経済地理的研究方法が今日の弁証法的唯物論などと いずれにせよ、 紀前半における最初の最も立派な経済地理学者、高い天賦の才能を有し、明晰にして大胆で、ロシアの地理と歴史に非常 立、人類社会への自然的条件の間接的影響に対する考察の必要性等々を主張する「単一的地理学」の概念と密接に関連し あって、結局、 しかし一方においては、 たとえば、 革命前の経済地理的研究に対するサウシキンなどのこうした見解が、地理的科学としての経済地理学の確 彼らが統計学をどのような科学として位置づけていたかについては更に分析する必要があるだろうが、 「カ・イ・アルセニェフは経済地域区分の理論と実践に確固とした基礎を置いた人であり、 前記のようにアルセニェフなどは、統計学と 政治経済学との関連性もある程度考えていたので やはり現在の自分達の主張とのつながりを求めるという傾向に大きく影 一九世

に通暁していた経済地理学者であった」というような評価を出してきたのも、ほ ある意味では当然の結果であると言えるの

### おわりに

ではないかと思うのである。

定的面とを明確に見分けていくことが大切だろうと考えるのである。 地理的理論の発展過程を解明していくことが必要であり、そうした分析に基づいて、革命前の研究が有する肯定的面と否 たように、これらの研究とソビエト時代の研究との間における本質的な違いを充分に理解し、その認識の上に立って経済 うかと思うのである。 について考察し、それを一つの大きな指標として、革命前の他の人々の研究を検討していくことが更に重要ではないだろ りこれも革命前における研究であり、しかも現代のソビエト経済地理学の出発点とされているところのレーニンの諸研究 前の研究を過大に評価するような態度がうかがえるとも言えるのであるが、こうした傾向を克服していくためには、 経済地理学を革命前の経済地理的研究がそのままの形で継続・発展してきたものであるかのようにみ、 る人々による革命前ロシアの経済地理的研究に対する評価には、いささか疑問に思われるような傾向、 かなる科学分野においても、その過去の時代における研究を評価するに際しては、色々と検討すべき問題が多いと思う 経済地域区分を含む革命前ロシアの経済地理的研究についての評価に関して言うならば、 このようにみるならば、「単一的地理学」を支持す すなわちソビエト やはりすでに記し それによって革命 やは

シアの具体的な地域区分をおこなったゲルマンやアルセニェフ、そして一九世紀中葉、はじめて経済地域区分の理論的問 れを発展させて経済地域区分の原則的問題を考えたラヂーシチェフ、 この小文においては、経済地域区分に関連する考えを含む経済地理的研究の概念をはじめて提示したロモ 一九世紀前半に自然的条件や経済的条件によってロ ノー ソフ、 き

どと同様にまた機会を改めて紹介してみたいと思うものである。 にはこれらのほかにも経済地域区分に関連する多くの研究がみられたのであり、これについては前記のレーニンの研究な 々について、とくに経済地域区分の理論的な面に関する問題を中心にして簡単にふれてみたのであるが、もちろん革命前 題を検討したオガリョーフ、更にその後、豊富な資料を利用して地域区分をおこなったペ・ペ・セミョーノフやその他の人

のであり、これはまた現代のソ連経済地理学を考察する上には非常に重要にして興味のある問題であるが、これについて何。 違いを生み出している要因の一つには、それぞれの立場からする現代の経済地域区分理論の存在ということが考えられる もいずれ考察してみたいと思う。 更にこれら革命前における研究に対しては、前記のようにかなりの評価の違いがみられるのであるが、こうした評価の

#### 

- ① これについては改めて註釈を加えるまでもないであろうが、① これについては改めて註釈を加えるまでもないである。(Izvestiya Akademii Nauk SSSR, seriya geograficheskaya, 1964—No. 5, Akademii Nauk SSSR, seriya geografiches
- 六一~七三頁、一九六四年)。 界における一つの問題(名古屋大学文学部研究論集、XXXII 一四巻六号、六一~七七頁、昭和三七年)。 拙稿、ソ連地理学

拙稿、単一的地理学及び経済地理学をめぐって(人文地理、

(5)

と記す)。

すことによって正確を期することにした。ることが多かったが、なるべく多くのこのような著述に目を通⑧ 結局、原資料を引用あるいは解説しているところの著述によ

- ④ Nikitin, N.P.: Istorichesky obzor razvitiya otechestvennoy ekonomicheskoy geografii (V Baransky, N.N., Nikitin, N.P., Saushkin, Yu.G. [red.]: Otechestvennye ekonomikogeografy XVIII-XX vv., 1957, Moskva. なおつの書については、以下 V sb. O. e. -g. と記す)str. 5 (以下 Nikitin:1
- (V sb. O.e. -g.) str. 74—77. Lebedev, D.M.: I.K. Kir-ilov (V Lyudi Russkoy nauki; Geologiya. Geografiya, 1962, Moskva) str. 317—324 など参照。なお、キリロフの書の正式Moskva) str. 317—324 など参照。なお、キリロフの書の正式の題名は「ピョートル大帝の並々ならぬ努力によってはじめらの題名は「ピョートル大帝の並々ならぬ努力によってはじめられ、ここまで導かれたところの全ロシア国家の繁栄せる状態」

- ⑤ タチシチョフについては、Tatishchyov, V.N.: Izbrannye trudy po geografii Rossii, 1950, Moskva. Iofa, I.E.: Vasily Nikitich Tatishchyov (V sb.O.e.-g.) str. 78—85 など参照。 被の著作としては、「ロシアの歴史もよび地理の著述についての序説」(一七三七年)、「ロシアの歴史・地理・政治・民事事典(未完)」(一七四五年)、「ロシア史(略称)」(一七四六年) などがあるが、ここにあげた地理学に 関する定義は、「ロシア央(未完)」(一七四五年)、「ロシアと(略称)」(一七四六年)などがあるが、ここにあげた地理学に関する定義は、「ロシアウンである。
- ① 各分野におけるロモノーソフの業績については、 Morozov,

(Tatishchyov : Ibid. str. 211)<sub>o</sub>

- 8 ロモノーソフの地理的研究全般については、Morozov: Ibid. str. 551—590. Dik, N.E.: Deyatelinosti i trudy M. V. Lomonosova v oblasti geografii, 1961, Moskva (以下 Dik: 1と記す)、Vestnik Moskovskovo Universiteta, seriya V, Geografiya, 1961—No.5, str. 5—34 などを参照。とくにその経済地理的研究については、 Dik: 1. str. 127—144. Dik, N. E.: Mikhail Vasilievich Lomonosov i evo znachenie dlyaekonomicheskoy geografii (V sb. O.e.-g.) str. 86—92 (以下 Dik: 2 と記す)、その他の論文を参照。
- して四九年の見解については、Vetrov、A.S.: Ob otsenke dorevolyutsionnovo nauchnovo nasledstva sovetskoy ekonomicheskoy geografii (V Alampiev, P. M., Feygin, Ya. G. (red.): Metodologicheskie voprosy ekonomicheskoy geografia

- afii, 1962, Moskva. なお、この書については、以下 V sb. M. v.e. g. と記す) str. 266 (以下 Vetrov:1 と記す)。新しい M. v.e. g. と記す) str. 266 (以下 Vetrov:1 と記す)。新しい afix、一七六五年に設立された「ロシア自由経済学会」(Rossyskoe volinoe ekonomicheskoe obshchestvo) はロモノーソフのこの考えを手本にしたものといわれる。(Vetrov:1. str. 266. Voskoboynikova, S. M.: M. V. Lomonosovi rayonnoe geograficheskoe izuchenie strany, 1962 〔ただしこの論文は、AN SSSR: Referativy zhurnal (ソ連科学アカデミー、論文 AN SSSR: Referativy zhurnal (ソ連科学アカデミー)、論文 AN SSSR: Referativy zhurnal (ソ連科学アカデミー) (Referativy zhurnal (ソ連邦学 ストラー) (Referativy zhurnal (Referativy zh
- ⑩ Vetrov:1. str. 266. Grekov, V.I.; O rabotakh M.V. Lomonosova v oblasti geografii, 1962 (ただしこの論文は、AN SSSR: Refe. zhur. 1A26, 1963. による)。
- 一七六〇年から六三年頃にかけてのメモにおいて、この名称
   を示したといわれる。なお、彼は「経済地図」(ekonomicheskaya landkarta) の名称も考え出したという。 (Saushkin, Yu. G.: K dvukhsotletyyu termina "ekonomicheskaya geografiya" (Vestnik Moskovskovo Universiteta, seriya V, Geogr., 1961 --No. 5) str. 24-27. Dik: 1. str. 128 その他)。
- 五問だけで、他はすべて経済的研究に関するものだとしているいとみているが、Grekov などは、自然研究に関連したものはいとみているが、Grekov などは、自然研究に関連したものが多的研究に関連したもので、他は自然現象と関連させたものが多い。このアンケートについては、とくに Dik: 1. str. 120−122,

# 革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

- 色を研究するためのものだったと考えるものである。(Grekov: op. cit.)。筆者としても、これは各地方の経済的特
- □ 一七六三年のロモノーソフの研究は「経済事典について」で□ ひまするに彼は、ロシア各地の生産物を概観しうる事典あるが、要するに彼は、ロシア各地の生産物を概観しうる事典□ 一七六三年のロモノーソフの研究は「経済事典について」で
- ② Vetrov: 1. str. 267. Lyashchenko, P. I.: Istoriya narodnovo khozyaystva SSSR (1), 1952, Moskva, str. 420<sub>o</sub> なお、ロモノーソフの社会経済的思想については、その他に AN SSSR: Ocherki istorii SSSR. XVIII v. vtoraya chetverti,
- ⑮ リィチコフについては、Iofa, L.E.: Pyotr Ivanovich Ry-レンブルグ県の地誌」がある。

1957, Moskva, str. 433—441 など参照

ソイモノフについては、Vetrov, A.S.: Etapy razvitiya nauchnoy mysli v oblasti ekonomicheskovo rayonirovaniya v dorevolyutsionnoy Rossii (Izvestiya AN SSSR, seriya geogr., 1958—No.6) str. 80 (以下 Vetrov: 2 と記す). Lebedev, A. M.: F. I. Soymonov (V Lyudi Russkoy nauki, 1962) str. 298—305。ここにあげたのは、一七六一年の論文「古い

チェボタリェフについては、 Alampiev, P.M.: Ekonomicheskoe rayonirovanie SSSR (I), 1959, Moskva, str. 46 (以 下Alampiev: 1 と記す)・Nikitin: 1. str. 10。 一七七六年地 諺、シベリアはもうかる場所」である。

#### 四四四

した。 て、モスクワ地方と東・西・南・北の計五地方にロシアを区分 理学教科書「ロシア帝国 の 地理的体系的記述(略称)」におい

候によって北緯五七度から北の地方、五七度から五〇度の地方、怪によって北緯五七度から北の地方、石七八六年「現在の新らたに(V sb. O.e.-g.) str. 99-103。一七八六年「現在の新らたに知えられた状態におけるロシア帝国の概観」において、主に気勢えられた状態におけるロシア帝国の概観」において、主に気勢えられた状態によって北緯五七度から北の地方、五七度から五〇度の地方、

五〇度より南の地方の三地域にロシアを区分した。

- ⑩ ラデーシチェフの文学的業績については、たとえば、米川正・ ・ 大、ロシア文学史、一九五一年、一五~一七頁。スローニム、 夫、ロシア文学史、一九五一年、四八~五○頁など 参照。その社会思想などについては、ソビエト科学アカデミー、 がエー・野原・林監訳、世界史、近代3、一九六一年、九七一~ 九七六頁・Lyashchenko: op. cit., str. 423—424. AN SSSR: Ocherki istorii SSSR. XVIII v. vtoraya polovina, 1956, Mo-
- 作品の内容に若干具体的にふれでいる。一頁、解説は四四四頁。なお、前掲、世界史、近代3でもこの一頁、解説は四四四頁。なお、前掲、世界史、近代3でもこのの 金子幸彦訳、ペテルブルグから モスクワへの旅(抄)、ロシ

skva, str. 489-499 など参照。

afiya (V sb. O.e.-g.) str. 104—110 (以下 Nikitin: 2 と記れiya (V sb. O.e.-g.) str. 104—110 (以下 Nikitin: 2 と記れiya (V sb. O.e.-g.)

- す)、その他の論文。シベリアについての 記述 は「シベリアへの旅行メモ」「シベリアからの 旅行日記」など。 ヴォロンツォの旅行メモ」「シベリアからの 旅行日記」など。 ヴォロンツォナー、その他の論文。シベリアについての 記述 は「シベリアへまた、108―109。
- は、Nikitin: 2. str. 109—110. Vetrov: 1. str. 269。
- ゲ・エヌ・グラリ、経済管区制の歴史に関する問題(ヴェ・ 「経済地理学の 諸問題」所収、昭和十一年)、二七四~二七五 「経済地理学の 諸問題」所収、昭和十一年)、二七四~二七五 可・Feygin, Ya. G.: Razmeshchenie proizvodstva pri kapitalizme i sotsializme, 1954, Moskva, str. 249。この結果、 シベリアは全域で一県とされたようである。
- 図「全ロシア帝国諸県統治のための制度」というエカテリーナの行政改革については、グラリ、前掲書、二七五~二七七頁:Feygin: Ibid. str. 249. Alampiev: 1. str. 42. Ocherki istor. SSSR. XVIII v. vtor. polov. str. 290—294 など参照。
- 約四○○キロも離れたサマラ(現在クイビシェフ市)に従属しサラトフに依存しているのに、行政的にはサマラ県に入れられ、スカヤ村(現在エンゲルス市)は経済的にはヴォルガ川対岸の掲書、二七六頁)。食い違いの例としては、たとえばポクロフ港干の県 の 増設があったにすぎなかったという。(グラリ、前郷(volosti)という行政単位が 設定されたことと領土拡張による) 一世紀半の間における変化としては、一八六一年に郡の下に

- どである。 (Feygin: Ibid. str. 250-251)。 はウラヂミール県に、ズェヴォ村はモスクワ県に入っていたなはウラヂミール県に、ズェヴォ村はモスクワ県に入っていたなていたし、また一九世紀後半になると、繊維工業中心としてのていたし、また一九世紀後半になると、繊維工業中心としての
- 図 彼はシベリアを五~六県に区分したり、ヨーロッパ・ロシア図 彼はシベリアを五~六県に区分したり、ヨーロッパ・ロシア
- 図 ムラビョフは「憲法案」において、一三の国家(derzhava)とモスクワ、ドンの二州(oblasti)、その下に五六九の郡 (uezd)、 を考え、またペステリは「ルースカヤ・プラウダ」において、一○州と三公地(また は 首都的都市)(udel)、各州 は 五県(guberniya)または区(okrug)から成り、その下に郡、更に(guberniya)または区(okrug)から成り、その下に郡、更に(guberniya)または区(okrug)から成り、その下に郡、更に(feygin:Ibid. str. 253. Alampiev:1. str. 43)。
- られるのである。(Vetrov: 1. str. 267)。 局、彼の考えや研究が遂行されないままに終ってしまったとみ局、彼の考えや研究が遂行されないままに終ってしまったとめに、結め、ラデーシチェフは言うまでもないが、ロモノーソフにしても、
- 頁.Lyashchenko:op. cit., str. 397—496 など参照。 函 ソビエト科学アカデミー、世界史、近代3、九一九~九四○
- は、Bernshteyn-Kogan, S. V.: Mikhail Dmitrievich Chulkov

潔一般地理学」などがあるが、前者において地域区分をおこな

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

多くの資料を提供してくれるものとして評価されている。その Alampiev: 1. str. 47. Nikitin: 1. str. 130 他、当時の状況などについては、 Vetrov: 1. str. 270-271. 称)」が最も著名であり、現在もこの書 は ロシア経済史研究に (V sb. O.e.-g.) str. 116—120 を参照。チゥルコフの著書と しては一七八一年から八八年の「ロシア商業の歴史的記述(略

- German (V sb. O.e.-g.) str. 121—126. Vetrov: 1. str. str. 20-23 も参照。 Rossii. V XVIII-pervoy polovine XIX v., 1963, Moskva. お、これについては、Kabuzan, V.M.: Narodonaselenie 271-272 など参照。彼の統計学に関する見解は、「この科学 ド・ウクライナ諸県、ステップ地帯諸県、シベリアである。な 究」である。その八地域は、北部諸県、バルト諸県、ヴォルガ を教える人のための 統計学一般理論」(一八〇九年)にあり、 トワニア、小ロシアすなわちロシア・ウクライナとポーラン 水源付近諸県、中央ロシア諸県(東部と西部)、白ロシアとリ またその一八一九年の著作は「ロシア帝国に関する統計学的研 ゲルマンについては、 Valiskaya, B.A.: Karl Fedorovich
- sii, 1960(ただしこの論文は、AN SSSR: Refe. zhur. 7E67K, E. N. : K. I. Arseniev i evo raboty po rayonirovaniyu Ros-1961. による)、その他 Ivanovich Arseniev (V sb. O. e. -g.) str. 134—140. Pertsik アルセニェフについては、 Baransky, N.N.: Konstantin
- 一八一八年頃の著作としては、「ロシア国家統計の敍述」「簡 Baransky: op. cit., str. 138. Saushkin, Yu. G.: Vve- Wetrov: 1. str. 272—273. Vetrov: 2. str. 81. Alampiev: ❸ 一八四八年の諸地域は一八年のそれと大体同じであるが、た 1. str. 47—48<sub>o</sub> denie v ekcnomicheskuyu geografiyu, 1958, Moskva, str. 58 sb. M.v.e.g.) str. 118 (以下 Alampiev: 2 と記す))。 rayonirovanie i evo mesto v ekonomicheskoy geografii (V 140. Vetrov: 1. str. 276, 年の著作については、 Baransky: Ibid. str. 136—137, 139— だその境界がかなり修正されているようである。その他、四八 る」と述べたという。 (Alampiev, P.M.: Ekonomicheskoe ればよいのであり、それ故に労力を五分の一に減じ たの で あ を互いに別々に習得する代りに、今やただ一○地方だけを覚え は学ぶ者に大きな便宜を与える。何故ならば、各県の自然状態 フカス、シベリアである。 (Baransky: Ibid. str. 135)。 バルト、低地、カルパチア、ステップ地帯、中央、ウラル、カ グ、ノヴゴロド、プスコフ、ドヴェリ、スモレンスクの諸県)、 ったのである。その一〇地域は、北部、アラウン(ペテルブル アルセニェフは地域区分の目的について、「それ(地域区分) (以下 Saushkin:1 と記す).Nikitin:1. str.14. 註@参照。
- S.: O roli N.P. Ogaryova v istorii Russkoy nauki o rayonirovanii (Izvestiya AN SSSR, seriya geogr., 1963-No. 2) オガリョーフの経済地域区分研究については、 Khorev, B.

- str. 99—109. Nikitin, N.P.: Nikolay Platonovich Ogaryov o rayonirovanii Rossii (V sb. O.e.-g.) str. 152—161 (以下Nikitin:3 と記す).Alampiev:1. str. 42—46. Vetrov:1 および 2 などの論文を参照。
- ○九~三二三頁·Lyashchenko: op. cit, str. 475-580 など○九~三二三頁·Lyashchenko: op. cit, str. 475-580 など
- があったという。 (Nikitin:1. str. 16)。
- rnal ministerstva vnutrennikh del) (一八四七年)に 掲載され、のち「モスクワ通報」に転載されたものである。ただ無署名であるためにその筆者については色々と意見があり、ニキーチンは、それはアルセニェフであるというヴァリスカヤの考えを疑問視し、またアラムピエフは、その筆者はエヌ・イ・ナデジーン (N.I. Nadezhdin) ではないかとしている。 (Nikitin: 3. str. 153. Alampiev: 1. str. 44)。
- ) Khorev: op. cit., str. 100. Alampiev: 1. str. 44-45. Vetrov: 1. str. 273-275°

- ⑪ この地域区分はロシアを次の一二地域に区分した。中央又は この地域区分はロシアを次の一に地域に区分した。 の地域区分はロシアを次の一二地域に区分した。 中央又は
- どという批判である。(Nikitin: 3. str. 155−156)。して結合されているなストラハンの諸県がステップ地帯諸県として結合されているなは互いに異なっているところのタムボフ、ザヴォールジェ、アは互いに異なっているところのタムボフ、ザヴォールジェ、アは互いに異なっているところのタムボフ、ガラーを開発と原料生産のたとえば、マニュファクチュア工業のモスクワ県と原料生産のため、
- 9 Khorev: op. cit., str.  $101_{o}$
- ④ この論文は「地方の状況との関連においての農業に関するロの、Nikitin: 3. str. 157-158)。
- Khorev: op. cit., str. 101. Vetrov: 2. str. 82. Niki
   str. 158<sub>o</sub>
- これらについては、Khorev: Ibid. str. 100, 103. Alampiev: の 「生産能力」と記したが、もちろん「生産力」としてもよい。

- 革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)
- str. 45. Nikitin: 3. str. 156<sub>c</sub>
   Feygin: op. cit., str. 254<sub>o</sub>
- (#) Khorev: op. cit., str. 101. Vetrov: 2. str. 82. Alampiev:
- ず、交通は小ロシアの小麦地方とザヴォールジェとに全く異な 探し求め、全く同じ地方で同じ労働によって雇われる。ザヴォ も、住民は同一の関心によって生活している。全地域は土壌と 同一の土壌を有するステップであり、小麦が同一の方式で作ら シア(ウクライナ)人によって居住されているにも か か わ ら く異なっているのである」「たとえば、 サヴォールジェが 小ロ ガのこちら側(右岸)におけるサラトフの地主達の活動とは全 造酒工場への穀物の販路について配慮しているところのヴォル 除く)諸県の地主達のようにライ麦を蒔き、耕地を転換せず、 それは、ペンザ、タムボフ、シムビルスク(サマルスキー郡を 全く同一の利益を追求し、全く同一の活動領域にある。そして ルジェの地主達――この巨大な土地における農場経営者――は ールジェの商人達は全く同一の生産物を買い占める。ザヴォー ォールジェの農民達は自己の耕地のために同じように未耕地を 人間労働の同一性によって一つの全体に結合されている。ザヴ 目指しているところのステップである。どんな種族であろうと れ、全く同一の生産物が全く同じヴォルガの波止場への販路を 「ここ(ザヴォールジェ地域=ヴォルガ中・下流左岸の地)は、 社会経済的関係や交通に関連して次のように述べている。
- らいせ、Khorev: Ibid. str. 101, 103. Alampiev: 1. str. 45−46. Vetrov: 1. str. 275₀
- **5**0 Ibid. str. 105. Nikitin: 3. str. 159-160. Alampiev: 1. str. 平洋へ向うに従っていくつかの地方に区分されるべきであり、 黒海地方を形成するものとしてもよいとし、またシベリアは太 小ロシア、ノヴォロシアであって、最後の三地方を一つにして 中央又は真の大ロシア、ウラル、沿カスピ、ドン・コサック、 に」。その区分は、白海、沿バルト、白ロシア、リトワニア、 ∾。 (Khorev: Ibid. str. 105. Nikitin: 3. str. 159)。 六 [ str. 158-159. Alampiev: 1. str. 43)。 五九年のものは「理 問題」(第一章)。(Khorev: Ibid. str. 105—106. Nikitin: 3. Ibid. str. 108—109 を参照。 44)。その他、オガリョーフの連邦構想については、 Khorev ポーランドには完全な自決権を認めるべきだとした。(Khorevi 年の論文は「コーロコル(鐘)」 誌上の「新しい年 一八六一年 ナ、ノヴォロシア又は黒海、ウラル=シベリア、アムールであ バルト、ポーランド=リトワニア、白海、ヴォルガ、ウクライ 想」誌上に発表されたもので、その九連邦は、中央ロシア、沿 一八五六年の論文は「北極星」誌上に出された「ロシアの諸
- であったことはもちろんである。(Nikitin:3. str. 160−161)。のような区分は、経済地域区分とまた若干意味を異にするもののような区分は、経済地域区分とまた若干意味を異にするものしの準備という見地から問題を提起したようである。しかしこ起の準備という見地から問題を提起したようである。しかしている。 八二年には 七地方の 区(okrug)に、 六三年には 七地方の

った特徴を与えている」と。その他、オガリョーフの見解につ

- (Khorev: op. cit., str. 103)。
- 63 3. str. 154)<sub>o</sub> 理論に基づいて、その具体的な経済地域区分が色々と推定され 示したようである。今日、こうしたオガリョーフの記述や彼の ・ヤロスラウ県の一部)、 ロシア の「黒バン貯蔵庫」である黒土 ている。 (Khorev: Ibid. str. 102—103, 106—107. Nikitin: トラハン県付近まで延びるところの地方)という三つの地方を ヴゴロド県の一部)、サラトフスコェ・ザヴォールジェ地域(ヴ タムボフ、サラトフ「ヴォルガ右岸」の諸県とニージニィ・ノ 地帯諸県(シムビルスクへサマルスキー郡 を除く)、ペンザ、 中央大ロシア州として次の三地方、すなわちロシアのマニュフ 域区分については何も示さなかった。ただ、彼は一八六○年に ンブルグ県南西「ブズルスキー郡」を含め、南へほとんどアス ォルガ左岸のシムビルスク県南東 (サマルスキー郡) からオレ ン、カルガ、トゥーラの諸県、ニージニィ・ノヴゴロドおよび ァクチュア工業の代表であるモスクワ地方(モスクワ、リャザ が必要になるだろうということから、ロシアの具体的な経済地 なお、オガリョーフは、資料的問題やそのためには一冊の本
- う。(Nikitin: 1. str.32)。
- ペ・ペ・セミョーノフの経済地理的研究については、 Saushkin, Yu. G.: Pyotr Pyotrovich Semyonov-Tyan-Shanskykak ekonomiko-geograf (V sb. O.e.-g.) str. 228−235 (以

- 下 Saushkin: 2 と記す). その他の論文を参照。一八七一年の下 Saushkin: 2 と記す). その他の論文を参照。一八七一年の流文は「帝国住民の分布を条件づけるところの原因に従っての論文は「帝国住民の分布を条件づけるところの原因に従っての部辺境、中央工業地帯、ペテルブルグ工業地帯、ミンスク低森林地帯、北部白ロシア低森林地帯、ステップ非黒土(カスビ低地)、西がカフカスの山麓・丘陵、ステップ非黒土(カスビ低地)、西がカフカスの山麓・丘陵、ステップ非黒土(カスビ低地)、西がカフカスの山麓・丘陵、ステップ非黒土(カスビ低地)、西がカフカスの山麓・丘陵、ステップ・大阪北である。(Saushkin: 2. str. 229—230. Alampiev: 1. 塚北である。(Saushkin: 2. str. 229—230. Alampiev: 1.
- 一八八〇年の論文は「ヨーロッパ・ロシアの土地所有と住民 ・ 「国家計画委員会、GOSPLAN」などにおいて利用された。 ・ なお、八〇年の地域区分は、一九二〇年代にも「ゴスプラた。なお、八〇年の地域区分は、一九二〇年代にも「ゴスプラた。なお、八〇年の地域区分は、一九二〇年代にも「ゴスプラた。なお、八〇年の地域区分は、一九二〇年代にも「ゴスプラン」(国家計画委員会、GOSPLAN)などにおいて利用された。 (Saushkin:2. str. 231-232. Alampiev:1. str. 49)。
- アの工場工業と商業」。その一四地域は、中央又はモスクワ、P.: Ekonomiko-geograficheskie raboty Dmitriya Ivanovicha Mendeleeva (V sb. O.e.-g.) str. 252-261 (以下 Nikitin: 4 と記す)、その他の論文を参照。一八九三年の論文は「ロシ4 と記す)、その他の論文を参照。一八九三年の論文は「ロシステレーェフの経済地理的研究については、 Nikitin, N. ジェンデレーェフの経済地理的研究については、 Nikitin, N.

## 革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

バルト又はペテルブルグ、北部、東部、シベリア、中央アジア、バルト又はペテルブルグ、北部、東部、シベリア、中央穀物又は黒カフカス、南部、南西部、北西部、小ロシア、中央穀物又は黒カフカス、南部、南西部、北西部、小ロシア、中央穀物又は黒井、フィンランド、ポーランドである。 一九〇六年 の 論文は代に 257—258, 260. Alampiev: 1. str. 277—278. フォルトゥナトフの 批判については Alampiev: 1. str. 50。

- Alampiev: 1. str. 49. Vetrov: 2. str. 83—84
   ...
- ∞ フォルトゥナトフについては、Nikitin, N.P.: Aleksey Fedorovich Fortunatov (V sb. O.e. -g.) str. 269—275. Vertrov: 2. str. 84—85. Nikitin: 1. str. 31 を参照。とくに彼の見解については Vetrov を参照。なお、一八九六年の論文はロシア自由経済学会の紀要に発表されたものである。
- ∞ リフテルの論文は、一八九八年「自由経済学会紀要」に発表さいた「自然的および経済的指標に基づきヨーロッパ・ロシアを諸地方に分割する試み」である。(Alampiev:1. str. 50—51. Nikitin:1. str. 29)。

lubkov) が編集に あたった。(Alampiev: 1. str. 50-51. ・ 「年に発表した「地域ごとのヨーロッパ・ロシアの商業および一年に発表した「地域ごとのヨーロッパ・ロシアの商業および一年に発表した「地域ごとのヨーロッパ・ロシアの商業およびでは、ヴェ・ペ・セミョーノフなどによるものは、一九〇〇年の資

Nikitin: 1. str. 30)。なお、ヴェ・ペ・セミョーノフについては、 Valiskaya, B.A.: Veniamin Pyotrovich Semyonov-Tyan-Shansky (V sb. O. e. -g.) str. 284—289 を参照。

2 str 82)
2 str 82)
2 str 82)

- © レーニン全集、第三巻所収。なおこの論文と経済地域区分問題 レーニン全集、第三巻所収。なおこの論文と経済地域区分問題 1. str. 56—58. Vetrov: 1. str. 278—279. Vetrov: 2. str. 85—87. Nikitin: 1. str. 34—35. その他多くのものがあげられる。
- Saushkin: 1. str. 58. Nikitin: 1. str. 25<sub>o</sub>
- えは社会的秩序と富を破壊するものである」という非難を浴びるは社会的秩序と富を破壊するものである」という非難を浴び産的にし、国民の自由というものが工業へのより良い奨励になる」「国民は政府より前に存在するものである。それ故に 国民は政府よりも重要であり、我々は最も重要なる対象としての国は政府よりも重要であり、我々は最も重要なる対象としての国は政府よりも重要であり、我々は最も重要なる対象としての国は政府よりも重要であり、我々は最も重要なる対象としての国は政府よりも重要であり、我々は最も重要なる対象としての国民に対方が、アルセニェフやゲルマンほか二人の教授達によれば、一八二一年にペテルブルグ大学の保守的教授達によれば、一八二一年にペテルブルグ大学の保守的教授達にいる。

論文からの引用がある)を参照。 論文からの引用がある)を参照。

- 278. Alampiev: 1. str. 41, 43, 48. Alampiev: 2. str. 120)。 であるなどという見解が示されている。 (Vetrov: 1. str. かで のであるなどという見解が示されている。 (Vetrov: 1. str. 20)。 アルセニェフは、地域区分というものを何らの理論もなく、
- $\ \ \, \mbox{\it \&} \ \ \, \mbox{Saushkin}: \mbox{\it 1. str. } \mbox{\it 71. Nikitin}: \mbox{\it 1. str. } \mbox{\it 28, } \mbox{\it 31}_{\mbox{\scriptsize 0}}$
- れている。(Vetrov:1. str. 278. Vetrov:2. str. 83)。 ず、資本主義を最良の社会機構と考えていたことなどがあげらず、資本主義的生産様式のはかない将来をみること がで きたし、資本主義の地域的発展の特色について何らの認識も持たなかっ資本主義の地域的発展の時代にあった彼らは、ロシアにおける
- じめて示されたものとみている。 (Vetrov:2. str. 80)。 またし、ヴェトロフは、この概念はやはりロモノーソフにおいてはえはラヂーシチェフによってはじめて示されたとするのに 対⑩ たとえばヴァリスカヤは、ロシア経済地域区分についての考

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

とみるべきだとしている。(Vetrov: 1. str. 276)。の考えはこの問題についての最初の科学的な問題提起であったで問題への解答を与えたかのようにみているが、オガリョーフヴェトロフは、ヴァリスカヤなどはオガリョーフが経済地域区

- Alampiev: 1. str.  $40-41_{\rm o}$
- 別 たとえば、ペ・ペ・セミョーノフ、ヴェ・ペ・セミョーノフ、 の業績ということではなく、社会主義建設のための応用などと の業績ということではなく、社会主義建設のための応用などと の業績ということではなく、社会主義建設のための応用などと の業績ということではなく、社会主義建設のための応用などと の学績ということではなく、社会主義建設のための応用などと いう面が問題になるのだとするのである。これらについては、 いう面が問題になるのだとするのである。これらについては、 いう面が問題になるのだとするのである。これらについては、 いう相が回いにしてはなく、社会主義建設のための応用などと の学績ということではなく、社会主義建設のための応用などと いう面が問題になるのだとするのである。これらについては、 いう面が問題になるのだとするのである。これらについては、 いう面が問題になるのだとするのである。
- 3, 1960, Moskva, str. 333 [Nikitin, N.P.: rayonirovanie s, 1960, Moskva, str. 333 [

革命前ロシアにおける経済地域区分研究(小野)

ekonomicheskoe v dorevolyutsionnoy Rossii))

- の地域区分が必要だとしたようである。(Alampiev: 1. str. 37の地域区分が必要だとしたようである。(Alampiev: 1. str. 37の地域区分では、社会主義の下での国民経済政策には役革命前の地域区分では、社会主義の下での国民経済政策には役立たないのであり、社会主義の下での国民経済政策には役立たないのであり、社会によっておいる。(Alampiev: 1. str. 37の地域区分が必要だとしたようである。(Alampiev: 1. str. 37の地域区分が必要だとしたようである。)

(Alampiev: 1. str. 40)<sub>o</sub>

- 図 これらの見解については、Nikitin: 1. str. 7-8, 12, 14, 17, 20, 25, 28, 32-33. Saushkin: 1. str. 49, 71。環境と 人類との関係に対するアルセニェフの考えについては、 Bara-nsky: op. cit., str. 140。その他、 人類社会と 自然との相互 rmyshevsky) の見解などにも注目している。 (Nikitin: 1. str. rmyshevsky) の見解などにも注目している。 (Nikitin: 1. str. 24. Saushkin: 1. str. 64)。
- しかもその比重は小さいものであったとし、また一八四八年の。 る自然地理的資料は政治経済 的資 料との関連 なしに示され、@ たとえばヴェトロフは、アルセニェフの初期の著作にみられ

- とみている。(Vetrov: 1. str. 272, 277)。 とみている。(Vetrov: 1. str. 272, 277)。 とみている。(Vetrov: 1. str. 272, 277)。
- ® また、アルセニェフの経済地域区分のおかげで、ロシアは経済地域区分の母国となったという。(Saushkin:1. str. 58)。そ地域区分の母国となったという。(Saushkin:1. str. 58)。それはじめて確立したのである。アルセニェフの研究は地理学の一はじめて確立したのである。アルセニェフの研究は地理学の一部としての経済地理学の形成に大きな役割をはたした」としている。(Cherdantsev,G. N., Nikitin, N. P., Tutykhin, B. A.: Ekonomicheskaya geografiya SSSR, 1958, Moskva, str. 7. 岡・宮鍋訳、ソヴェト経済地理概論、昭和三五年、六~七頁)。
- 国民経済の諸要素のみならず、自然資源や生産の自然的条件もなわち社会的生産力の領域的結合が経済地域の基礎であり、なわち社会的生産の経済的分析のみが経済地域区分の基礎となななどという考え(科学アカデミーを中心とする研究者達。アなるなどという考え(科学アカデミーを中心とする研究者達。アなるなどという考え(科学アカデミーを中心とする研究者達。アなるなどという考え(科学アカデミーを中心とする研究者達。アなるなどという考え(科学アカデミーを中心とする研究者達。アなるなどという考え(科学アカデミーを)。

地域はある一定の生産機能を遂行するところの国民経済の専門は社会経済的特色を持つ原因を通してのみ作用するとし、経済発展は社会経済的領域の原因により規定され、その際自然現象を中心とする研究者達。サウシキンなど)、また、地域の形成・また経済地域を形成する要因であるという考え(モスクワ大学また経済地域を形成する要因であるという考え(モスクワ大学

Chetyrkin) など)という三つの学派があるとしている。(S-学を中心とする研究者達。ヴェ・エム・チェトゥルキン 〔V. M.化された領域的一環であるなどという考え(レニングラート大

emevsky, B.N., : Voprosy teorii ekonomicheskoy geografii, 1964, Leningrad, str. 41-43),

五三

#### Studies on the Economic Regionalization in the Pre-Revolutionary Russia — Its Historical Outline and the Present Estimates —

Kikuo ONO

Many geographers in Russia before the Revolution tried to make economic regionalization. In the middle of the 18th century, M.V. Lomonosov opened the new field of research, namely, "economic geography" and called attention to the regional differences of the Russian economy. A. N. Radishchev, in the late 18th century, developing this conception of Lomonosov, proposed the principle of economic regionalization, for example, saying that Russia could be divided geographically according to the economic character of each region, and argued that the administrative regionalization was to be related to the regional economic conditions. In the early 19th century, such scholars as K.I. Arseniev, K.F. German, and so on, basing on the abundant data, made regionalization of Russia according to the physical and economic conditions. In the middle of the 19th century, N.P. Ogaryov emphasized the significance of the industrial development and growth of productive power of the country in the study of economic geography, and argued that the economic regionalization had to be done by discovering the most dominant productive power in each region and by taking into account of the socio-economic relations of each region around its productive power, namely, that the regional divisions of productive powers were to be the basis of the economic regionalization, and showed the same idea as that of Radishchev as to the administrative regionalization. Ogaryov's study is regarded today as one of the most excellent achievement among the economic geographical surveys before the Revolution. In the early 20th century up to 1917, there were the studies of economic regionalization by P. P. Semyonov = Tyan = Shansky, etc., but the most

important studies in this field were those of V. I. Lenin, especially his *Development of Capitalism in Russia*, to which I will refer at another occasion.

Among the various studies of economic regionalization before the Revolution, those of Ogaryov and Radishchev are, generally speaking, highly regarded today, but there is a considerable difference in the appreciations of the works by Arseniev and P. P. Semyonov, and so on. One group of scholars estimate that Arseniev and others built the basis of theory and practice of economic regionalization and that the ideas which they conceived had a progressive meaning in those days. However, other scholars argue that, though there were several merits in their studies, there could be found no theories, and criticize the scholars who give affirmative estimate to them saying that their opinions have some tendencies to underestimate their bourgeois limitations and to ignore the underlying essential difference between the pre-revolutionary era and the Soviet era.

One reason why there is a tendency to overestimate the pre-revolutionary studies is that those scholars who overestimate them are proposing the theory of "unified geography", in which the economic geography constitutes one part of the geographic science. They say that Arseniev and others already proposed this conception. This opinion seems to have resulted in their overestimation of the achievements of the pre-revolutionary era, by relating it to their present theory.

I think that the adequate recognition on the essential difference between the pre-revolutionary era and the Soviet era is important when we examine the economic-geographical studies in the Russia before the Revolution. And addingly, it is necessary to take into account the Lenin's studies, and to use the idea of Lenin as one index.